

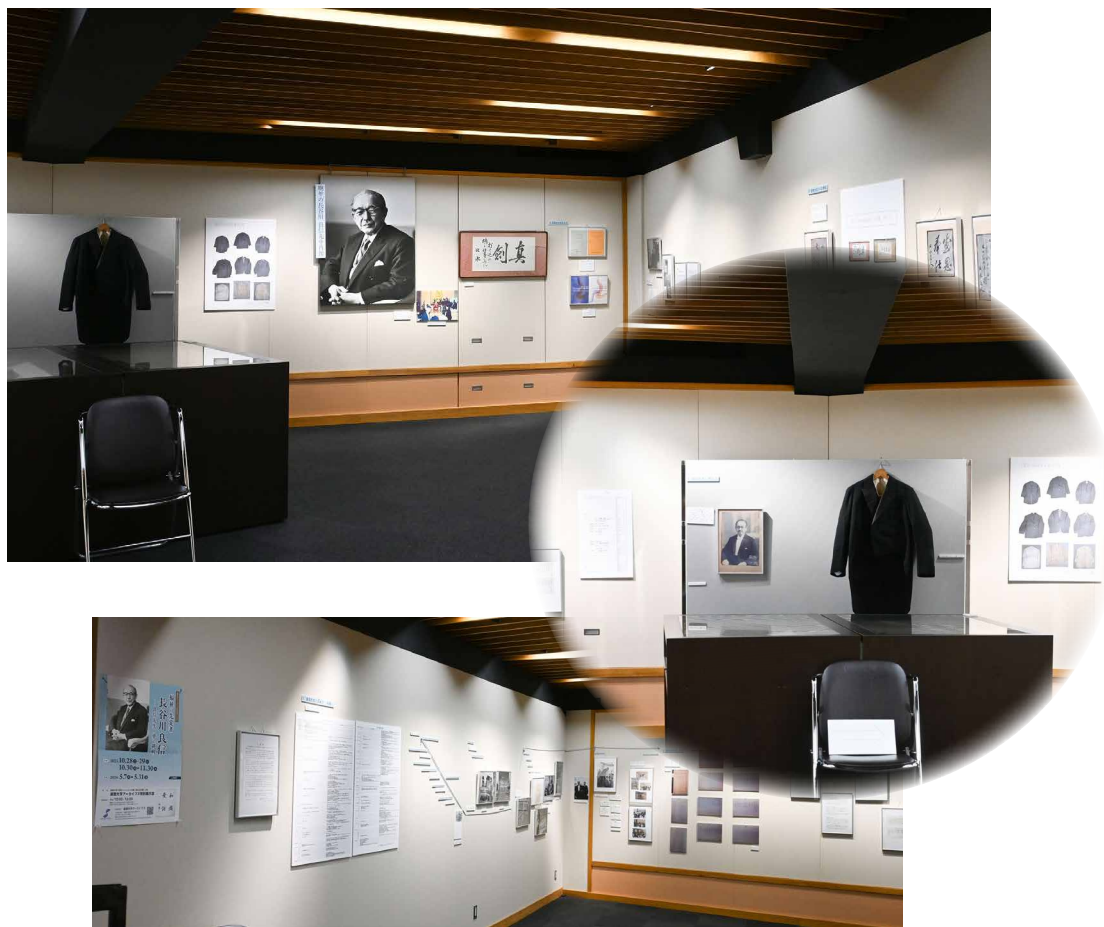
淑徳大学アーカイブズ・ニュース

vol.28

2024.2.22

目次

淑徳大学アーカイブズ特別展「福祉の先覚者 長谷川良信 ー良信先生の夢と挑戦ー」……………	1
学祖に迫る その6 ……………	2
～表紙の写真について～ ……………	2
アーカイブズの活動紹介 ……………	3
卒業生寄稿……………	4
アーカイブズ力をつける その6……………	6
アーカイブズ事務室だより／ご協力のお願ひ／編集後記 ……………	8



学祖に迫る その6

足立叡先生からみた学祖

淑徳大学千葉キャンパスで1年生向けに行われた「長谷川良信の思想と生涯」の講演記録から、このコーナーを構成しています。

第6回は足立叡先生
(あだちあきら 元学長
2013年4月～2017
年3月、淑徳大学名誉
教授、1945年生)の講演を取り上げます。



学祖 長谷川 良信先生

足立先生は淑徳大学が開学してから7年目の1972年(昭和47年)に淑徳大学に赴任し、2017年(平成29年)3月まで在職され、「社会福祉原論」などの授業を担当されました。退職後の2021年(令和3年)春に「瑞宝中綬章」を受賞されています。

講演は、「長谷川仏教社会事業論にみる臨床的視点」という内容で、良信先生が書かれたさまざまな文章に目をとめて話をされました。

足立先生は、「深い実践と社会福祉の研究と教育を通して、将来も含めて良信先生は明らかにされた」とご自身が理解され、とくに良信先生の先見性に注目しました。

良信先生が仏教の視点から教育に力を入れられたことは、周知のことですが、このことを足立先生は具体的な事例から、わかりやすく紐解かれました。

一つの事例として、精神病院に実習に行った学生の行動をあげました。患者さんの病室に向かう課題を出された学生の心の動きをとらえます。病室に入るまでは、自分のことばかりに意識が向いてしまって、人に関われなくなってしまったことを解説します。良心的エゴイ

ズムを乗り越えること、これが社会福祉の実践であり、教育であるということを確認しました。「Not for him, But together with him」に表される、他者との関係性において、個は個足りうるということを良信先生が教育においても、とても重要視されていたことを強調されました。

(1998年6月19日の録音音声より)

～表紙の写真について～

アーカイブズ特別展示室

「福祉の先覚者 長谷川良信

—良信先生の夢と挑戦—

2023年10月28日から上記の特別展示が開催されました。その展示室の様子です。

長谷川良信先生の資料は写真などの再整理をアーカイブズで行っていますが、その流れのなかで、皆様にも良信先生の資料の面から関心を持っていただきたく、企画した展示です。展示は、良信先生の年表(詳細年表、略年表)・写真・額などを中心に構成し、衣装と着用されて写っている写真との照合を行うなど新しい試みも致しました。また過去の展示や刊行物も資料として位置付けられることを示しました。

この展示は2024年5月7日～5月31日に



も一部展示替えを行い、開催します。皆様のご来室をお待ちしております。なお、閉室中も臨時開室が可能です。お問い合わせください。

アーカイブズの活動紹介

アーカイブズ事務室の職務の根幹は資料に関わることで、関係者の皆様より資料を寄贈いただくことで、活動が続いていきます。

現在、収蔵資料のうち、写真資料は点数も多く、重点的に作業を進めています。また良信先生の資料に関して、点検をする等、収蔵資料を段階を追って整理を始めています。

またアーカイブズを理解していただくための、特別展示・アーカイブズ叢書の刊行ほか、付帯した事業にも力を入れています。



資料調査

今年度も、大念寺(茨城県稲敷市)で古文書調査を実施しました。



周辺の資料についても写真撮影ほかの作業を進めています。左の写真は、調査日程中にちよ

うど町内の祭礼にあたり、記録として「江戸崎祇園祭 山車の巡行(西町)」を撮影しました。

また調査にあたり大念寺の御住職古矢智照様はじめ関係の皆様大変お世話になっており、2023年4月にはアーカイブズを見学に来ていただきました(写真)。



叢書の刊行

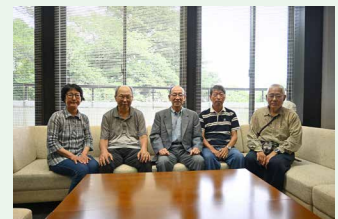
事務室では、アーカイブズ叢書を毎年1冊ずつ刊行しており、本年度は、浄土宗関東十八檀林の常福寺(茨城県那珂市)の日鑑を集成した『常福寺類聚 二』を刊行します。



活動紹介

淑徳大学アーカイブズ・古文書ボランティア

古文書ボランティアは、古文書の読解の作業(大念寺文書)を進めています。今秋は展示準備の一翼を担っていただくなど、作業内容も相談しながら進めています。長年の協力に感謝し、古文書ボランティア懇談会も開催いたしました(右記写真)。



大巖寺宝物殿の展示協力

毎月2回(火曜日・土曜日)の開館日に支援をしております。最近、明らかになった画家「岡田魚降森」という人物の展示「岡田魚降森『大巖寺曼荼羅』の世界展」の準備にもかかわっています。



寄稿

淑徳大学留学で学んだこと

大仁科技大學 徐 嘉隆

はじめに 日本へ

1989年12月1日、私は台湾の憲兵を退役しました。それから1990年になると、淑徳日本語学校に入学することが決まりました。1990年3月26日、私は日本に渡り、日本語の勉強を本格的に始めました。平仮名や日常会話を2か月におよび、学びました。

1991年に日本語学校教師の白寄まゆみ先生の推薦で、大正大学社会福祉学系に合格し入学しました。ここで学校の先生たちから、色々お世話になりながら、社会福祉学の知識を吸収して、4年後にやっと卒業が出来ました。

1 淑徳大学へ

その後、1995年には淑徳大学大学院社会福祉学研究科博士前期課程に合格して、社会福祉学専攻に進学しました。

この時期、私は学校の近くにある大巖寺の宿舎に住んでいました。この時も指導教授小嶋英夫先生をはじめ、学校の先生達に大変お世話になり、大変感動いたしました。

ところで、修士課程の勉強では特に長谷川良信先生の「共生」という仏教福祉の精神が大変良く印象に残っています。台湾の人々にもぜひご紹介したいと、その頃から心の中で決めていました。1997年に博士前期課程を修了し、帰国してから1年間大学で非常勤講師に就きました。1998年に再び淑徳社会福祉学専攻で博士後期課程に合格して進学しました。私は2000年に博士後期課

程の単位をすべて修了し満期退学となり帰国し、再び教育の職務に戻りました。

2 留学での経験

この10年間の留学経験は私の人生に大きな影響を与え、多くの貴重な経験と知識を得る機会となりました。

まず社会福祉専門技術と倫理的価値観を学び、これは日本の社会福祉では高度な技術と倫理的な観点から構築されたことと思われませんが、それは日本で学んだことで非常に貴重なものでした。日本の社会福祉の実践において、日本文化の精神が福祉分野で重要な役割を果たしていると思われま

す。まず第一に、淑徳大学で学びました奉仕の精神は、社会福祉分野で輝いています。特に医療・教育・福祉サービス・ボランティア活動など、どの分野でも多くの時間と労力を投じ、社会的弱者のサポートとケアを受けられるようにしています。

つぎに、日本の社会福祉サービスは、強い責任感で取り組まれ、福祉資源が最大限に活用され、社会全体に利益をもたらすようにしています。さらに、社会福祉分野においては、日本人はチームワークにも注力しています。社会問題の解決やサポートの提供において、協力が不可欠であることを日本人は認識しています。

この協力の精神は、異なる分野の専門知識を統合し、多様な社会のニーズによりよく応えるのに役立っています。

また社会福祉の各分野での日本的なプロフェSSIONAL精神は、研究と実践に対す

る真摯な姿勢、時間と労力をかけて問題に向き合う姿勢という点において、私の大学教職にも大いに影響を与えています。私も生徒たちに最高の教育を提供するために、全力を尽くすことを目指しています。

総括すると、日本での留学経験が私の価値観に深い影響を与えました。これらの経験は、私の専門職と教育活動において、貴重な資産となっており、今後もこれらの価値観を大切に、発展させていくつもりです。

3 わたくしの現在の教育活動

現在の私の仕事は、社会福祉の専門家を育成するだけでなく、日本で学んだ専門的な価値観を台湾に広めることです。そのために、台湾の社会福祉学科の学生を淑徳大学の海外短期見学プログラムにつなぐ努力を続けています。このプログラムを通じて、日本と台湾の文化の交流を促進し、学生たちに淑徳大学の仏教社会福祉の優れたところを理解させ、学生の専門レベルの向上を目指しております。

この取り組みは、日本と台湾の友好関係を深める一助ともなり、専門家の協力を促進する大切な役割を果たしています。日本の社会福祉の専門精神は、倫理観、プライバシーの尊重、コミュニケーションスキルなど、多くの面で高い水準にあります。これらの価値観やスキルは、台湾の社会福祉学生にとっても非常に有益であり、将来の専門家としてのキャリアにおいて大いに役立つでしょう。

また、異文化の体験を通じて、学生たちは異なる視点やアプローチを学び、問題解決能力を高める機会を得ています。日本の社

会福祉システムは、台湾とは異なる側面を持っており、これらの異なる視点を組み合わせることで、より効果的なアプローチが可能になります。

さらに、日本と台湾の友好関係の促進にも貢献しています。留学生の交流を通じて、文化的な理解と友情が深まり、協力関係が発展する土壌になっています。

* * * * *

このような国際交流は、社会福祉分野における連携と発展に寄与し、より良い社会福祉サービスの提供につながるでしょう。

最後に、日本での留学中、先生方と皆様には本当にお世話になりました。長谷川匡俊先生を始め学校の先生方からのご指導とサポート、そしてクラスメートの友情にも大変感謝しています。これからも皆様への感謝の気持ちを忘れず、より良い未来に向かって頑張ります。

☆徐先生から留学当時のことを振り返っていただき、お原稿をご寄稿いただきました。徐先生にはお忙しい中、執筆のお時間をとっていただき、感謝いたします。

【原稿募集】

卒業生から原稿を募集しています。当時のことを振り返り、出来事や活動について原稿をお寄せいただきたいと思います。特に初期の卒業生にはお願いしたく、ご執筆いただける方は、アーカイブズ事務室へご連絡ください。

アーカイブズ力をつける^{りよ}

その6

企業アーカイブズについて

清水 邦俊

今回は企業のアーカイブズについてお話しします。

企業にもアーカイブズを設けている会社があり様々な活動をしています。そのなかから、特徴的なアーカイブズを紹介したいと思います。

まずはビールを始めその他アルコール・清涼飲料で有名なキリンホールディングス株式会社コーポレートコミュニケーション部アーカイブ室です。

同室には、学校アーカイブズ同様に文字史料とモノ史料の両方を扱っています。ここでは各時代ごとのビールのパッケージラベルも保存しています。それを活用して1998年にキリンビール創業110周年を記念して明治・大正・昭和初期のビールを復刻しプレゼントキャンペーンを行いました。ビールの中身とパッケージラベルを可能な限り再現した「復刻ラガービール」としてテレビコマーシャルでキャンペーンがあったことを覚えている方も多いと思います。

実はこのキャンペーンは、アーカイブズ関係者の間でも理想的なアーカイブズ史料の活用法の一つだとして話題になりました。当時は今のように企業のアーカイブズ史料を商品に活用することは一般的ではありませんでした。しかし、キリンはアーカイブズ史料を復刻版パッケージとして商品に

活かしたのです。その後も復刻パッケージは生誕記念年にビールに使用されています。

* * * * *

続いては株式会社虎屋にある菓子資料室・虎屋文庫です。

虎屋は、和菓子、特に羊羹が有名な老舗の和菓子会社です。虎屋は歴史も古く、創業は室町時代と言われています。そのため、代々伝わる和菓子作りのレシピを書いた書類や経営帳簿等が現在まで伝わっています。このレシピをもとに今では生産されなくなった和菓子を季節限定で復元して、当時の味を今に伝えています。

過去のことを現代に蘇らせる・復元する、という点ではキリンと同じ活用法と言えるでしょう。

虎屋文庫が他の企業アーカイブズと大きく異なる点は、現代の経営資料を体系的に未来に伝えていく・残していくという取り組みをしていることです。これは非常に重要なことです。

アーカイブズ機関は兎角、過去の史料だけを扱っていると思われがちですが、現代の史料を未来に伝えるという役割も担っています。そうしなければ、将来所蔵史料を振り返って、一時期の史料が多く残っている反面、全く残っていない時期もあるという状況になります。

どのアーカイブズ機関にも共通することですが、時代や世代に関わらず、そこで働いていた・そこに生きていた人の記録が残されていなければなりません。人にもよりますが企業は1日8時間、それが20年・30年、あるいはそれ以上の時間を過ごす場でもあります。人生の数分の一という多くの時間を

企業の仕事に費やすわけです。そこに記録が残されていないと、その人の生きた記録の数分の一が不明になります。また、企業の歴史から見ると歴史の隙間ができてしまいます。そのような意味から虎屋の取り組みは当然でもあります。現代の書類を体系的に残すという取り組みを行っている企業は極少数というのが現実です。また、虎屋は書類をデータではなく紙に印刷して保存しているとのこと。これは、これまでの史料は紙だからこそ残ったという考え方に基づいているためです。

* * * * *

現在、私達が日々の業務で生み出している書類も50年後・100年後には当時を語る史料になります。活用法によっては企業や大学の両アーカイブズ史料は、将来的に経営戦略の基やその他の戦略を打ち出す素材(武器)になります。要するに、現代の書類は将来の経営財産(資産)にもなり得るわけです。

一方で企業アーカイブズのある研究者は、活用が大事であるとも述べています。もちろん保存することも重要であるとした上でのことです。

欧米の企業では、既に企業のアーカイブズ史料をコンプライアンス(法令遵守)や説明責任、リスク管理、また企業内部に向けては教育研修、経営理念の継承、マーケティング、商品開発、ブランド戦略、広報宣伝、意思決定等、様々は方面に活用しています。2000年代になり、海外の企業アーカイブズの活用法が日本でも紹介されるようになり、近年、日本の企業アーキビストの間でも認識され始めました。このように見ていくと、企業アーカイブズの活用法は大学アー

カイブズの活用に共通するところがあるように思います。

以上のことからアーカイブズ機関における「保存する」という言葉には、過去から伝わった史料を保存することと、現代の書類を未来へ向けて保存することの二つの意味があることをご理解いただけたと思います。

これと並行して史料の活用があります。したがって、保存と活用はアーカイブズでは、車の両輪の関係と言えらると思います。

* * * * *

これまで4回にわたって人の成長に沿って、成長段階に応じたアーカイブズ機関や史料を見てきました。アーカイブズ機関が多くの人々の活動や生活に関わっていると同時に、それが積み重なって歴史を形成しているということが感じられたと思います。

次回も、続けてアーカイブズ史料の活用法についてお話ししたいと思います。

~~~~~  
自己紹介

認証アーキビスト。國學院大學卒業後、千葉県文書館や高知県の土佐山内家宝物資料館(現、高知城歴史博物館)にて古文書の整理に従事。2018年からJICA日系社会シニア協力隊に参画。ブラジルのサンパウロ市にあるサンパウロ人文科学研究所にて日本人移住者や日系人が残した個人資料の整理に携わる。帰国後は高知市内にあるオーテピア高知図書館にて歴史的文書の整理に従事したのち、2022年10月から国士館大学の国士館史資料室に勤務する。淑徳大学アーカイブズ叢書の翻刻メンバーのひとりである。

## アーカイブズ事務室だより

### 事務室活動記録

(2023年4月～2023年12月)

○資料寄贈等(寄贈順): 千葉キャンパス総務、NPO法人ちば・生浜歴史調査会、長谷川仏教文化研究所、長谷川匡俊氏、富川由紀氏、大乘淑徳学園 経営企画部、地域連携室、学長室、細谷昭夫氏、湯浅道夫氏、石川奈保子氏、千葉キャンパス同窓会室、学生サポートセンター事務室、佐々木 正氏、慈光保育園

○聞き取り(協力者): 関口カツ子氏、菅谷厚子氏、武田逸朗氏、西塚 洋氏、長谷川匡俊氏、前田寿紀氏、松崎 滋氏、関谷政幸氏(生実町)

○資料貸出: 淑徳巣鴨中学高等学校

○調査: 大念寺(6/1,7/23,8/29,11/26)、常福寺(4/18)、マハヤナ学園(8/3)

○大巖寺宝物殿展示・開館支援: 4/11・22, 5/9・13・14・20,6/3・13,7/8・25,8/8・26,9/5・22,10/14・21・28・29,11/7・25, 12/5・16

○協力: 社会事業史学会大会記念展示「社会事業史学会50年」(5/13・14開催)、教育改革推進事業(楨英子教授)、記念館準備

○市原特別支援学校鶴舞分校産業現場実習(10/10・13受入)

○視察: マハヤナ学園跡地(11/18)、千葉県立中央博物館(12/26)

○特別展: 『浄土宗関東十八檀林 大念寺日鑑』刊行記念 いま、読み解かれる『大念寺日鑑』—地域社会と福祉—(Ⅱ期4/3～28)

○刊行物: 『淑徳大学アーカイブズ・ニュース』第27号(7/7刊行)

以上

〈ご協力のお願い〉

\*特に福祉関係の資料を収集しております。寄贈を希望される場合は、アーカイブズ事務室へご相談ください。

\*各部署で廃棄の状況が生じた書類等については、アーカイブズ事務室へご相談ください。

\*新型コロナウイルス流行に関するメール配信等は、各キャンパスより、情報を提供いただき、ご協力いただきました。

\*各部門・部署で刊行された冊子などは、年史を編纂するときや、遡ってその時の状況を振り返るときに必ず役立ちます。日ごろから寄贈にご協力いただいておりますが、データの寄贈もお受けしています。

〈編集後記〉

アーカイブズ事務室にいつもご協力いただき、ありがとうございます。

今回の卒業生からの寄稿は、留学生で台湾で活躍されておられる徐先生から原稿をお寄せ頂きました。「アーカイブズ力をつける」は、企業アーカイブズについてです。皆様ご存じの企業が取り上げられています。

新型コロナウイルスが流行中も、メール等の収集にご協力いただくなど、皆様の協力によって成り立っていることを実感いたしました。将来に向けて資料を残していくことで、大学・学園の未来に役立つことを思い、日々の業務に努めています。引き続き皆様のご協力をお願いいたします。 (大罵 聖子)

淑徳大学アーカイブズ

〒260-8701

千葉市中央区大巖寺町200 1号館3階

TEL 043(265)7526 <直通>

✉アドレス [archives@soc.shukutoku.ac.jp](mailto:archives@soc.shukutoku.ac.jp)

